

平成26年度
(2014年度)

事業報告書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

平成26年度 事業報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

名 称： 第27回東京国際映画祭
主 催： 公益財団法人ユニジャパン
(第27回東京国際映画祭実行委員会)
共 催： 経済産業省(マーケット部門)
東京都(コンペティション部門)
国際交流基金アジアセンター(アジア映画交流事業)
期 間： 平成26年10月23日(木)～平成26年10月31日(金)
企 画： コンペティション、特別招待作品、特別上映、アジアの未来、
CROSSCUT ASIA #01 魅惑のタイ、日本映画スプラッシュ、
ワールド・フォーカス、庵野秀明の世界、ピクミンショートムービー、
歌舞伎座スペシャルナイト、みなと上映会、TIFFCOM 2014、
第11回文化庁映画週間 他
会 場： 六本木ヒルズ(港区)、TOHO シネマズ日本橋(中央区)をメイン会場とし、
その他都内劇場及び施設・ホールを使用
後 援： 総務省／外務省／環境省／観光庁／港区／(独)日本貿易振興機構／
東京国立近代美術館フィルムセンター／
(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団／(公財)JKA／
(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
NPO法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
支 援： 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
補 助： 公益財団法人JKA(競輪補助事業)
オフィシャル パートナー： 木下グループ／日本コカ・コーラ(株)／キヤノン(株)／
キヤノンマーケティングジャパン(株)
プレミアム スポンサー： (株)WOWOW／フィールズ(株)／アウディジャパン(株)
スポンサー： 大和証券グループ／ソニー(株)／(株)TASAKI／ソニーPCL(株)／
(株)ぐるなび／カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
コーポレートパートナー： 松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株)KADOKAWA／日活(株)／
森ビル(株)／TOHOシネマズ(株)／(一社)映画演劇文化協会
メディアパートナー： 読売新聞／(株)J-WAVE／(株)ドワンゴ／スカパーJSAT(株)／

THE WALL STREET JOURNAL／(株)テレビ朝日／LINE(株)

／BS 日本映画専門チャンネル

フェスティバルサポーター：セイコーホールディングス(株)／(株)エアウィーヴ

／MHD モエ ヘネシー ディアジオ(株)／Cine Grid

／ゲッティイメージズ ジャパン(株)／(株)クララオンライン

／(株)小田急百貨店

【開催概要】

第27回東京国際映画祭は、平成26年10月23日(木)から10月31日(金)まで9日間、六本木ヒルズ、及び、TOHOシネマズ日本橋をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また11年目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2014)は、昨年に引き続き合同開催の第11回東京国際ミュージックマーケット(11th TIMM)、及び、東京国際アニメ祭2014秋(TIAF2014Autumn)と共に「JAPAN Content Showcase」として展開、台場(港区、ホテルグランパシフィック LE DAIBA)で開催され、好評裡に終了することが出来た。

椎名ディレクター・ジェネラル2年目である本年度の映画祭は、認知度・知名度を高めることを最大のテーマと考え、会場を六本木のみならず日本橋にも拡大、従来の上映部門に加えて、「庵野秀明の世界」、国際交流基金アジアセンター支援による「CROSSCUT ASIA #01 魅惑のタイ」、「ピクミンショートムービー」等、上映作品も大幅に増加させた。

また、連日の六本木ヒルズの賑わいを演出するため、「東京映画食堂」や「CINEMA MUSIC JAM」等を展開、歌舞伎座では、映画祭初の試み「歌舞伎座スペシャルナイト」を実施するなど、例年にない様々な取り組みを行う事が出来た。

その結果、今映画祭の自主企画は37企画で、動員数は223,912人で前年対比は183.9%とほぼ倍増となった。上映作品数も226本で、こちらも大幅な増となっている。

オープニングセレモニーは、10月23日(木)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。冒頭、来賓の高円宮憲仁親王妃久子妃殿下のご着席の後、スペシャルアンバサダーの「嵐」が登壇、続いて、昨年に続き、ご出席された安倍晋三総理大臣より祝辞をいただいた。その後、来賓、各部門の審査委員の紹介の後、ジェームズ・ガン国際審査委員長による挨拶、フェスティバルミューズ中谷美紀さんの挨拶の後、公式オープニング作品は、『ベイマックス』より、ドン・ホール監督、クリス・ウィリアムズ監督、エグゼクティブ・プロデューサーのジョン・ラセター氏、小泉幸太郎さん、菅野美穂さんが登壇、会場は感動と興奮に包まれた。

終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・レセプションが行なわれた。今年は、JCSの最終日ということもあり、お台場からも多数の参加者があり、大いにぎわいを見せた。

クロージングセレモニー(授賞式)は、10月31日(金)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、冒頭、今年新設された“SAMURAI(サムライ)”賞として、北野武監督とティム・バートン監督が登壇、大いに盛り上がりを見せた。その後、「日本映画スプラッシュ 作品賞」、「アジアの未来 作品賞」の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京グランプリ」はジョシュア・サフディ、ベニー・サフディの兄

弟監督作品『神様なんかくそくらえ』に、審査員特別賞はクリスティナ・グロゼヴァ、ペタル・ヴァルチャノフ共同監督の『ザ・レッスン／授業の代償』に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」はアミールフセイン・アシュガリ監督の『ゼロ地帯の子供たち』に、「日本映画スプラッシュ 作品賞」は武正晴監督の『百円の恋』に贈られた。また、今年新設の賞として、「WOWOW 賞」にアレクサンドル・コット監督の『草原の実験』、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」にソト・クォーリーカー監督（『遺されたフィルム』）が選ばれた。

その後、アカデミーヒルズ 49 階タワーホールに会場を移して「感謝のタベ」を開催した。公式クロージング作品『寄生獣』の出演者による舞台挨拶、及び、上映は前日の 30 日に行われた。

【自主企画】

（１）コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2014 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た 15 作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）による Q & A を行い、観客との交流の輪を広めた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6 名（日本人 1 名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の 6 賞が決まり、10 月 31 日の閉会式会場で発表された。東京グランプリには 5 万米ドル、審査員特別賞には 2 万米ドル、その他の賞に 5 千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金 1 万米ドルが 1 作品に贈られた。そして、今年より、WOWOW 加入者による選考委員がその映画の感動を世界中のファンと共有したいという考えのもと選定した、WOWOW 賞が新設され、1 万米ドルが 1 作品に贈られた。

・東京グランプリ：『神様なんかくそくらえ』（監督 ジョシュア・サフディ、ベニー・サフディ）

・審査員特別賞：『ザ・レッスン／授業の代償』（監督 クリスティナ・グロゼヴァ、ペタル・ヴァルチャノフ）

・最優秀監督賞：ジョシュア・サフディ、ベニー・サフディ

・最優秀主演女優賞：宮沢りえ（作品『紙の月』）

・最優秀主演男優賞：ロベルト・ヴィエンツキエヴィッチ（作品『マイティ・エンジェル』）

・最優秀芸術貢献賞：『草原の実験』（アレクサンドル・コット監督）

・観客賞：『紙の月』（吉田大八監督）

・WOWOW 賞：『草原の実験』（アレクサンドル・コット監督）

上映本数 15 作品 動員数 13,335 名

（２）特別招待作品

国内未公開の話題作品を28本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。また、特別上映作品として、『理由なき反抗 4Kデジタル修復版』『本日ただいま誕生』『炎のランナー』等の旧作も上映した。

上映本数 28作品 動員数 9,138名（「特別上映」9本を含む）

（３）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の1本目または2本目の長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。昨年度より設置。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

上映本数 10作品 動員数 3,198名

アジアの未来 作品賞

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。また、今年より、国際交流基金アジアセンターの支援のもと、国際交流基金アジアセンター特別賞が新設され、ソト・クォーリーカー監督（『遺されたフィルム』）が選ばれた。

- ・作品賞：『ゼロ地帯の子供たち』（監督 アミールフセイン・アシュガリ）
- ・国際交流基金アジアセンター特別賞：ソト・クォーリーカー監督（『遺されたフィルム』）

（４）「CROSSCUT ASIA #01 魅惑のタイ」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第1弾 タイ映画の魅力に迫る特集。最新作からインディーズ、学園もの、歴史ドラマ、そしてホラーまで幅広く上映。好評を得た。

上映本数 8作品 動員数 2,099人

（５）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。新人によるデビュー作から実力派中堅監督までバランスの取れた作品群となった。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

- ・作品賞：『百円の恋』（監督 武 正晴）

上映本数 8作品 動員数 2,099名

（６）ワールド・フォーカス

旧来の「アジアの風」と「ワールドシネマ」部門を合体させたりニューアル部門。世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月

末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 23作品 動員数 9,875名

(7)「庵野秀明の世界」

日本が誇る映像作家、庵野秀明の史上初の大型特集上映。これまでのTVアニメ・劇場公開作品に加え、庵野監督が学生時代に自主制作した貴重な短編・CM・PV等を含め53作品を上映した。

上映本数 53作品 動員数 3,519人

(8)「ピクミン ショートムービー」

「スーパーマリオ」や「ドンキーコング」など、数々の傑作ゲームシリーズを生み出してきたゲームプロデューサー、宮本茂氏による短編3Dアニメーション作品を上映。そのクオリティの高さに世界が注目した。 動員数313人

(9) 歌舞伎座スペシャルナイト

東京国際映画祭史上初の試みとして、日本の伝統芸能の発信地である歌舞伎座にて、歌舞伎俳優・市川染五郎による舞踊「石橋」の上演とデビュー百周年で歌舞伎座とも縁の深いチャールズ・チャップリンの「街の灯」の上映を行った。当日は、国内外の多数のお客様をお呼びし、上演前にはウェルカムドリンクを用意、幕間には特製幕の内弁当（歌舞伎座開場当時のものを再現）をふるまうなど、大変な好評を博した。

10月27日（月） 歌舞伎座 動員数 724名

(10) ジョン・ラセターが語るクール・ジャパン

オープニング作品『ベイマックス』のエグゼクティブ・プロデューサーであるジョン・ラセター氏による、日本文化、及び、日本アニメーションの魅力についての講演。当時の来日時の写真を駆使し、また、宮崎駿監督作品の魅力を場面を見せながら行うなど、実に魅力的な講演会であった。

10月24日（金） EXシアター 動員数 473名

(11) 北野武監督 第1回“SAMURAI（サムライ）”賞授賞記念トークイベント

第1回“SAMURAI（サムライ）”賞を受賞した北野武監督による、プロの映画監督・制作者を目指す若いクリエイターに向けてのトークイベント。映画を作っていく上での心構えなど興味深い話がなされた。

10月25日（土） アカデミーヒルズ49タワーホール 動員数 350名

(12)「七人の侍」特別上映イベント

このイベントに先立ち、今を代表する七人の監督を東京国際映画祭にて選出、発表した。そのうち、3名の監督（山崎貴、大友啓史、李相日）が登壇。黒澤明作品の魅力について熱く語り、その後、35ミリフィルムによる「七人の侍」の上映を行った。今も色あせない黒澤作品の魅

力に圧倒させられた。

10月26日（日） アカデミーヒルズ49タワーホール 動員数 220名

（13）東京映画食堂

東京国際映画祭に来た国内外のお客様に日本の食文化を同時に楽しんでもいただく場として、六本木ヒルズアリーナに日本を代表するトップシェフ5名（片岡護氏、金坂真次氏、須賀洋介氏、松久信幸氏、脇屋友嗣氏）の特設キッチンカーが登場。今回限りの特別メニューを特別価格で提供。会期中、売り切れメニューも出るなど、大いに賑わいを見せた。

（14）実物大イングラムデッキアップイベント

会期中、六本木ヒルズアリーナにて、『THE NEXT GENERATION パトレイバー』に登場する実物大のイングラムを展示。国内外のファンが多数集まり写真を撮るなど、大いに賑わった。

（15）CINEMA MUSIC JAM

映画祭の後半、六本木ヒルズアリーナにて、映画音楽を一流ミュージシャンが演奏・歌唱するスペシャルイベントを実施。その質の高さを詰めかけたファン也大いに堪能した。

（16）東京ポップコーンフェスティバル

会期中、お客様の憩いスペースと設定した大屋根プラザにて、有名ポップコーン店が3店出店。映画＝ポップコーンを連想させる企画。普段はなかなか買えないお店だけに、なかなかの賑わいを見せた。

〔共催・提携企画〕

（1）MOMAニューヨーク近代美術館映画コレクション

ハリウッド作品から伝説のインディペンデント映画まで、ニューヨーク近代美術館（MOMA）が誇る世界屈指のコレクションを最良のプリントで上映。

10月24日（金）～11月9日（日） 東京近代美術館フィルムセンター大ホール

上映本数 23作品 動員数 6,168名

（2）第11回文化庁映画週間

①文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会 10月23日（木）／10月26日（日）

優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者7名を顕彰した

②シンポジウム—MOVIE CAMPUS— 10月27日（月）

映画文化の最新動向を紹介するシンポジウム 第一部は“CGアニメ”をテーマに実作を紹介しながら日本の業界の現状と未来について、第二部は撮影現場での課題や今後の人材育成についての展望を議論した。

(3) 映像シンポジウム

10月23日(水)

ハリウッドのシェーン・ハールバット撮影監督を招き、カメラワークや撮影技術に関するシンポジウムを開催した。劇場作品の抜粋映像や実験的な短編2作品をデジタル上映。終了後は盛況の懇親会で締めくくられた。

(4) みなと上映会

10月25日(土)／10月26日(日)

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「サンタ・カンパニー」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならず政策研究大学院大学想海樓ホールでも行った。

(5) 第36回PFFぴあフィルムフェスティバル

9月13日(土)～9月25日(木)

自主製作映画のコンペティション「PFFアワード」では、平均年齢27.8歳の監督22名を紹介。招待作品部門では、「羽仁進監督特集」「素晴らしい特撮の世界」「SF・怪奇映画特集」などを上映と講座で展開した。

(6) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム

10月28日(火)

伝統ある日本映画監督協会新人賞の第54回受賞者・市井昌秀監督作品『箱入り息子の恋』上映の後、同映画の武部由美子プロデューサーが市井監督との仕事を中心に、若手監督をどう育てるかについてトークを行った。

(7) 映画の未来～新しい映画鑑賞システムを体験!!

10月24日(金)

『舞妓はレディ』の日本語・英語字幕をメガネ型のヘッドマウントディスプレイに表示、音声ガイドはスマホアプリで提供。シンポジウムは、周防監督、聴覚障害者当事者らが今後の映画鑑賞について熱い話を繰り広げた。

(8) 「ウルトラセブン」HDリマスター2.0～円谷プロ特撮への誘い!～

10月26日(日)

今回は、「ウルトラセブン」から2話を上映、モロボシ・ダン役の森次晃嗣、アンヌ役のひし美ゆり子、アマギ役の古谷敏、満田かずほ監督、そして樋口真嗣監督を交え、撮影当時の貴重なエピソードが語られた。

(9) 『もしも建物が話せたら』スペシャル上映 in TDW2014

10月27日(月)

初めてのTOKYO DESIGNERS WEEKとの連携で、TDW会場にて、今年のTIFF特別招待作品『もしも建物が話せたら』の上映を実現。上映前には著名建築家によるトークショーも。のべ250名が来場した。

(10) スターチャンネル×スカパー!映画部 喜劇王吹替トーク “TIFF meets チャップリン”

10月28日(火)

映画デビュー100周年のチャップリンを日本の誇る文化である「吹替」で蘇らせるという企画。3作品上映後、吹替声優がチャップリンの衣装で登場しトークするという構成に会場は大い

に盛り上がった。

(11) 第7回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月12日(金)～9月16日(火)

西田敏行へコメディ栄誉賞を授与。記念の特集上映や豪華アーティストによるリスペクトライブを開催。また、世界各国からの特別招待作品やコンペティション、各種コラボ企画上映などを実施。大盛況のうちに終了した。

(12) コリアン・シネマ・ウィーク 2014 10月24日(金)～10月29日(水)

日本未公開作を含む最新の韓国映画7本の上映と上映作品の俳優のキム・ガンウさん、キム・ソンフン監督のティーチインを通じて多様なジャンルの韓国映画の魅力を広く紹介し、多くの観客の皆様より好評を得た。

(13) シネマトラベル presented by ショートショートフィルムフェスティバル& アジア

10月4日・5日、11日～13日、18日・19日、25日・26日

SSFF & ASIA2014 グランプリなど全27作品を無料上映、待機時間のショートフィルム鑑賞として多くの方々が来場。ワークショップでは、たかのてるこ氏がゲスト講師で登場、好評満席となった。

(14) 2014 東京・中国映画週間 10月19日(日)～10月24日(金)

新作の中国映画10作品を上映。開催記念セレモニー、レセプションにも多数の方が参加。

(15) Cine Grid @TIFF 2014 10月29日(水)

映像制作におけるグローバルクラウドの本格活用、高精細映像の配信やアーカイブ技術など、最前線でのICT活用事例を紹介すると共に、未来の映像制作・利用の可能性について活発な議論が繰り広げられた。

(16) MPAセミナー／映画と資金—終わらないドラマ 10月27日(月)

ケネディ駐日米国大使、ドッド米国映画協会会長がスピーチし、アカデミー賞受賞作品『炎のランナー』等のプロデューサー、デヴィッド・パットナム卿が「映画と資金—終わらないドラマ」のテーマで講演をした。

【その他の提携企画】

(1) 「映画館に行こう！」実行委員会×スカパー！映画部 第3回 新作映画イッキに見せます in 東京国際映画祭 10月27日(月)

2014年秋から2015年上半期に劇場公開される最新映画の予告編53本をイッキに上映。「映画泥棒」キャンペーンでおなじみのカメラ男が登場したほか、林修の映画に関する特別講義などが行われた。

(2) 「子どもたちの世界映画祭 22nd キンダー・フィルム・フェスティバル」

8月13日(水)～8月17日(日)

オープニングは実写版『ピノキオ』。戸田恵子さんら豪華共演のライブ吹替で披露し、大きな反響を呼んだ。声優の佐久間レイさん講師の3世代で参加できる声優アカデミーでは、約20名の地元声優チームが誕生した。

(3) スカパー！日曜シネマテーク SPECIAL EVENT Drive-in Theater at TOKYO TOWER 『バック・トゥ・ザ・フューチャー』

10月26日(日)

TOKYO FM「スカパー！日曜シネマテーク」では、東京タワーにて一夜限りのドライブインシアターを出現させるスペシャルイベントを開催。

(4) 第11回ラテンビート映画祭

10月9日(水)～11月9日(日)

スペインの名監督アレックス・デ・ラ・イグレスシア監督が新作『スガラムルディの魔女』を携え来日、イグレスシア監督特集を実施。ラテンフードイベント COMIDA やブックイベント LIBRO も大盛況。

(5) 第8回田辺・弁慶映画祭

11月7日(金)～11月9日(日)

コンペティション作品、招待作品、応援作品等、計16本を上映。コンペティション部門では、応募のあった142作品のうち、予備選考を通過した8作品を上映、審査を行い各賞を決定した。

(6) ポーランド映画祭2014

11月22日～11月28日、12月13日(土)～12月26日(金)

ヴォイチェフ・イエジー・ハス特集や、ポーランド民主化25周年記念特集、キシエロフスキの作品などに人気が集まり、盛況の中、終幕した。

(7) 第4回日本学生映画祭

10月26日(日)

第26回東京学生映画祭、第8回 TOHO シネマズ学生映画祭、第16回京都国際学生映画祭のグランプリ作品を上映。ウエダアツシ監督、前野朋哉氏、ハリー杉山氏、上映作品の監督らを招き、トークショーも実施。

(8) MPA/DHUフィルムワークショップ

10月26日(日)

世界的な名映画プロデューサーのデヴィッド・パットナム卿や、俳優別所哲也氏らの講演。シノプシスコンテストでは、事前審査を通過した20名が会場で自作をピッチ、審査委員により最優秀賞と特別賞が選出された。

(9) フィルムメイキング・サバイバル講座「映画は完成したけれど」

第1回講座 インディペンデントにとっての新しい出口戦略

10月26日(日)

第2回講座 デジタルシネマ時代の小規模映画の上映の課題

10月27日(月)

第3回講座 世界から見た日本映画の強みと弱み

10月30日(木)

〔顕彰・助成〕

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画スプラッシュ 作品賞）。

〔運営〕

① 自主企画の実施

本年度は、新規部門、リニューアル部門も含めた以下の部門（「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの未来」、「日本映画スプラッシュ」、「ワールド・フォーカス」「庵野秀明の世界」他）を実施した。

② 上映会場、各種会場

六本木地区、及び、日本橋地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHOシネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）

TOHOシネマズ日本橋（4スクリーン）

歌舞伎座

・その他の上映会場（提携企画等を上映）：

国立近代美術館フィルムセンター大ホール、お台場シネマメディアージュ、

アカデミーヒルズ49タワーホール、シネマート六本木、

政策研究大学院大学想海樓ホール、EXシアター、

TDW映像ドーム（TDW2014会場内）、韓国文化院ハンマダンホール、

調布市グリーンホール、浅草公会堂、浅草文化観光センター、

上野恩賜後援野外ステージ、TIAT SKY HALL、品川プリンスシネマ、

シアター・イメージフォーラム、新宿バルト9、紀南文化会館、東京タワー駐車場、

デジタルハリウッド大学駿河台キャンパス

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：TIFF コミュニティ広場として使用。

「ヒルズカフェ」：TOKYO CINEMA LOUNGE として使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：連日、各種イベントの実施に使用。

「小田急百貨店新宿本館 12F レストラン街」：本映画祭の出品作品の紹介等の場として活用。

③ 入場料金

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| ○ オープニング／クロージング | 一般：2,500円 学生前売・当日：2,000円 |
| ○ コンペティション | 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |

○ 授賞式+サクラグランプリ受賞作品

一般：2,000円 学生前売：1,500円 学生当日：500円

○ 特別招待作品

一般：2,000円 学生前売：1,500円 学生当日：500円

○アジアの未来、日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス、CROSSCUT ASIA、特別上映、
一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円

○庵野秀明の世界 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円

○庵野秀明の世界（AN上映） 一般：3,000円 学生前売：3,000円 学生当日：3,000円

○パトレイバー（AN上映） 一般：3,000円 学生前売：2,000円 学生当日：500円

○みなと上映会、監督協会上映 一般：1,000円、学生前売：800円 学生当日：500円

○バリアフリー上映 一般：1,800円 学生前売：1,500円 学生当日：1,500円

○円谷プロ イベント上映 一般：1,800円 学生前売：1,500円 学生当日：500円

歌舞伎座スペシャルナイト 一般・学生（前売り・当日）：10,000円

○日本学生映画祭 一般・学生（前売り・当日）：500円

④ 会期中のイベント

（六本木ヒルズ アリーナイベント）

○オープニング・イベント：10月23日（木）

○OPレッドカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

○デイリーでのイベント開催：会期中、以下のイベントを連日開催した。

・東京映画食堂 シェフPR：片岡護、金坂真次、須賀洋介

・パトレイバー除幕式：押井守、真野恵里菜、笈利夫、太田莉奈、森カンナ

・WOWOW映画工房 150回記念公開収録：斉藤工、板谷由夏、中井圭ほか

・映画『MIRACLE デビクロくんの恋と魔法』プレミアイベント：相葉雅紀、榮倉奈々、ハン・ヒョジュ、生田斗真、犬童一心

・世界コスプレサミット in 東京国際映画祭：22の国と地域代表のコスプレイヤー

・CINEMA MUSIC JAM：TOKU、手島葵、サラ・オレイン、溝口肇、ジェイコブ・コーラー、ケイシー・コスタ、

・映画「エクスペンダブルズ3」スペシャルイベント：ケラン・ラッツ、パトリック・ヒューズ、飯田香織、保田圭、石川梨華、小川麻琴

・映画「くるみ割り人形」スペシャルイベント：有村架純、松坂桃李、板野友美、市村正親、安蘭けい、藤井隆、増田セバスチャン

・「ティム・バートンの世界」オープニングセレモニー：ティム・バートン、ピース

（TOKYO CINEMA LOUNGE）

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェをTOKYO CINEMA LOUNGEとし、パスホルダー向けのホスピタリティ空間とした。また、夜の時間帯には、DJイベント TIFF NIGHT等を行った。

(TIFF コミュニティ広場)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」を TIFF コミュニティ広場と称して、一般来場者の寛ぎスペースとして演出した。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。ポップコーン販売ブースや売店、インフォメーションブース、キャノンブースも設置、OPカーペット写真の展示も行った。サイン会等も活発に行われた。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズの 66 プラザ付近、大屋根プラザ、ヒルズアリーナ内に設置。人も配置した上で、デジタルモニター設置により最新の上映情報等を流すことが出来た。

⑥ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場で案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、エコバッグを販売した。

[広報活動]

① 新聞広告・・・「読売新聞」紙上

② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月20日より

③ プレスPASS・・・取材者向けのID登録。

取材エリア、プレスセンターへの入場及びP&I 上映で利用

④ 記者会見

○ 第1回記者会見 2014年 8月26日 六本木ヒルズ・タワーホール

○ 第2回記者会見 2014年 9月30日 虎ノ門ヒルズ・ホールA

○ 会期中の記者会見 六本木ヒルズ内ホール、TOHOシネマズ劇場内

○ 受賞者記者会見 2014年10月32日TOHOシネマズ六本木ヒルズSC3

⑤ 宣伝素材・・・ティザーチラシ、本チラシ(全上映スケジュール入り)、

「庵野秀明の世界」チラシ、開催概要、公式プログラム、
公式記録、ポスター、記者会見資料

⑥ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など

一般紙、スポーツ紙：新聞合計 365 媒体

映画専門誌、情報誌：紙媒体合計 182 媒体

NHK、民放局、BS・CS局他：電波媒体合計 252 媒体

インターネット：ネット媒体合計 10, 198 媒体

海外広報：海外媒体合計 6, 500 媒体

パブリシティ合計 17, 497 媒体

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別

取材等に対応した。

- ⑦ 公式サイト・・・オフィシャル動画、ニュースとしてニコニコ動画チャンネル、映画コムニュース、Yahoo!特集など外部サイトとの連携強化でPV数が2013年7,234,925PVから2014年8,600,000PVへと大幅にアップした。
- ⑧ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。
公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFFの最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。
- ⑨ イメージネット・TIFFの出品作品の素材を提供しているサービス。
登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

会期前の10/21(火)より最終日の10/31(金)まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニングクロージング作品の大型ビジュアルや映画祭ロゴ、また映画祭と各作品のポスター等を掲出。会場を華やかに盛り上げた。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- ② メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、メトロハット・ビジョン
- ③ 66プラザ 水景、ポスターボード
- ④ 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- ⑤ けやき坂 歩道照明バナー

(六本木地区内の広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10/5(日)から10/31(金)の27日間の長期に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 150枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 3000枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 20500枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 1550枚
- ⑤ 都バス定期券発売所 チラシ設置 3500枚

[東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。

第27回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や

港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

- みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催
2014年10月25日(土)／10月26日(日)
TOHOシネマズ六本木ヒルズ(入場者数 266名)
政策研究大学院大学 想海樓ホール(入場者数 172名)
- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金1万米ドル)
授賞式 10月31日(金) TOHOシネマズ六本木ヒルズSC2
受賞作品『紙の月』 登壇者 吉田大八監督
- 街頭フラッグの掲出
けやき坂、麻布十番商店街、芋洗坂商店街、六本木材木町商店街に
て合計159枚
2014年10月17日(金)～10月31日(金)
- みなとクリーンナップ・プロジェクト
2014年10月18日(土) 午前10時開始
六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿
いの清掃を行った。
参加者 376人
- オリジナル広告
港区のKissポート誌10月号に1ページ広告を掲載して、
港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で
合計15万枚を配布した。

2. TIFFCOM 開催事業

【 TIFFCOM 2014 の開催概要と成果報告 】

「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の制作運営（経済産業省の委託事業）

■ TIFFCOM 2014 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第 27 回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第 11 回東京国ミュージックマーケット（11th TIMM）
東京国際アニメ祭 2014 秋（TIAF 2014 Autumn）
- ④ 日程： 平成 26 年 10 月 21 日（火）～10 月 23 日（木）
- ⑤ 会場： ホテルグランパシフィック LE DAIBA、シネマメディアージュ

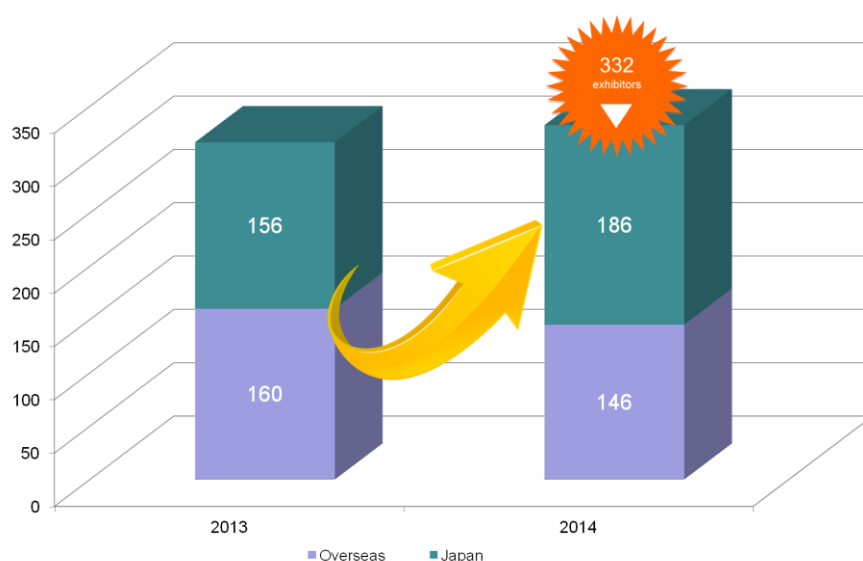
■ TIFFCOM 2014 成果報告

TIFFCOM2014 は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットである TIMM（第 11 回国際ミュージックマーケット）、アニメ企業の出展による TIAF（東京国際アニメ祭 2014 秋）、と同会場で実施し、「Japan Content Showcase」（JCS）のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOM として過去最高となる 332 の出展団体が参加し、バイヤー登録は、昨年対比 8%増の 1160 人、商談件数も 5,699 件と昨年対比 18%近く伸長した。

出展者データ

2014 年度 出展団体数【 海外：146／国内：186 合計：332 】



2014 年度 国・地域別出展団体数

アジア	104	日本	186	スウェーデン	1
カンボジア	19	ヨーロッパ	26	イギリス	11
中国	2	ベルギー	3	北米	8
香港	2	ブルガリア	1	カナダ	6
インドネシア	3	エストニア	1	アメリカ	2
韓国	35	フィンランド	1	南米	6
マレーシア	13	フランス	2	コロンビア	6
シンガポール	1	ドイツ	1	中東	1
台湾	23	ラトビア	1	トルコ	1
タイ	5	ポーランド	1	アフリカ	1
ベトナム	1	ロシア	3	コートジボワール	1

バイヤーデータ

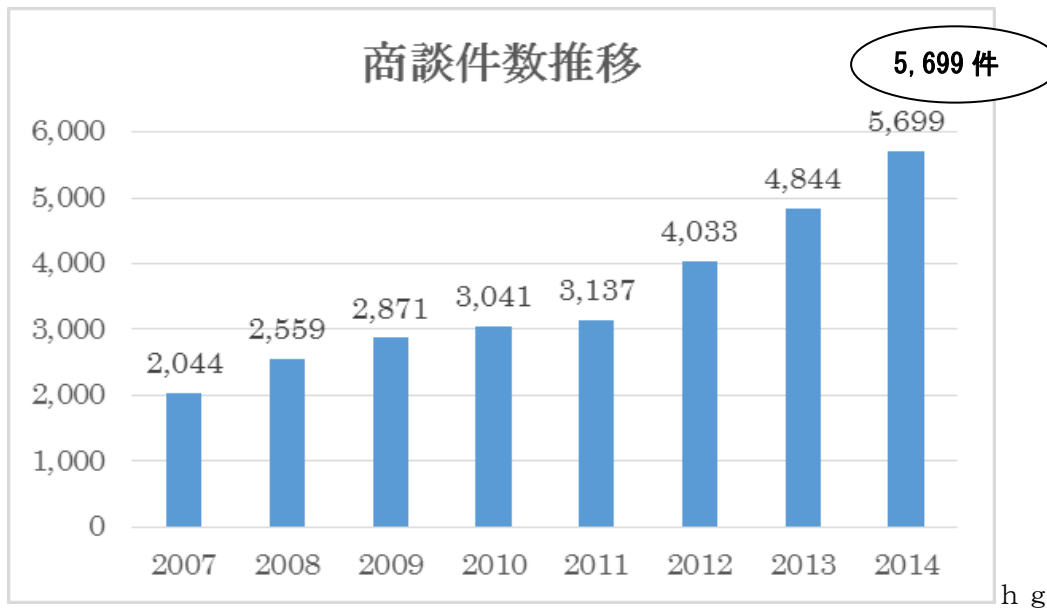
■ 2014 年度 : 1160 人 ※ 2013 年度より 8%増加

アジア	457	フィリピン	19	カナダ	3
ブルネイ	1	ベトナム	10	アメリカ	45
カンボジア	1	日本	584	南米	4
中国	33	ヨーロッパ	53	チリ	1
香港	81	ベルギー	2	ブラジル	1
インド	10	クロアチア	1	メキシコ	2
インドネシア	17	フィンランド	2	オセアニア	11
カザフスタン	2	フランス	22	オーストラリア	9
韓国	97	ドイツ	7	ニュージーランド	2
マレーシア	13	ハンガリー	1	中東	2
ミャンマー	1	イタリア	3	クウェート	1
ネパール	1	ロシア	3	シリア	1
パキスタン	1	スウェーデン	1	アフリカ	1
シンガポール	26	スイス	1	チュニジア	1
台湾	106	イギリス	10		
タイ	38	北米	48		

商談結果推移・内容

契約金額および商談件数推移

■ 2014 年度 : 総契約金額 : \$50,632,000



3. 国際振興支援事業

【 国際交流 】

(1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援事業（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 平成 26 年度支援実績

- ① 総採択数 66 件（平成 25 年度実績 76 件）
- ② 総申請件数 129 件（同上 165 件）
- ③ 支援総額 21,041,409 円（同上 27,038,375 円）

■ 主な支援作品

- | | |
|----------------|---|
| ・ カンヌ国際映画祭 | 『2 つ目の窓』（河瀬直美監督） |
| ・ モスクワ国際映画祭 | 『私の男』（熊切和嘉監督）
* 最優秀作品賞受賞
* 最優秀男優賞受賞 |
| ・ ヴェネチア国際映画祭 | 『野火』（塚本晋也監督） |
| ・ モントリオール世界映画祭 | 『ふしぎな岬の物語』（成島出監督）
* 審査員特別賞受賞
* エキュメニカル審査員賞受賞
『そのみにて光輝く』（呉美保監督）
* 最優秀監督賞受賞 |
| ・ ベルリン国際映画祭 | 『天の茶助』（SABU 監督） |

(2) 日本映画・映像コンテンツの輸出支援事業（文化庁の委託事業）

■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

- ① カンヌ国際映画祭マーケット（平成 26 年 5 月 14 日～23 日）
* JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット（平成 26 年 6 月 11 日～13 日）
・ 練馬アニメーション協議会との共同ブース出展。
・ 6 月 12 日（木）「Japan Party」を開催。

- ⑥ トロント国際映画祭マーケット（平成 26 年 9 月 4 日～13 日）
 ・ 9 月 8 日（月）国際交流基金トロント事務所にて「ジャパン・フィルム・ナイト」を開催。
- ⑦ ベルリン国際映画祭マーケット（平成 27 年 2 月 5 日～13 日）
- ⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 27 年 3 月 24 日～3 月 26 日）
 ＊ JETRO との共同出展

（３）国際共同製作支援事業（経済産業省の委託事業）

■ 国際共同製作認定事業

① 実施概要

- ・ 応募件数： 14 件
- ・ 認定件数： 11 件
- ・ 文化庁支援採択件数： 5 件

・ 文化庁支援採択企画

	区分	作品名	団体名	共同製作国	備考
1	劇映画	エンドレス・ポエトリー	(有)アップリンク	チリ・フランス	
2	劇映画	銀板の女	(有)ビターズエンド	フランス	前年度認定作
3	劇映画	人生散策（仮題）	(株)松竹撮影所	台湾	
4	劇映画	Bangkok Nites	(株)空族	フランス	
5	劇映画	Magic Kimono （邦題：魔法の着物）	(有)ローデッド・フィルムズ	ラトビア	前年度認定作

② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・ 日程： 平成 26 年 7 月 24 日(木)
- ・ 会場： ユニジャパン会議室
- ・ 検討委員：

石川知春 NPO 法人映像産業振興機構(VIPO) 事務局長
 石川光久 プロダクション I.G 株式会社 代表取締役
 井関惺 株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
 華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
 富山省吾（委員長） 日本アカデミー賞協会 事務局長
 堀越謙三 有限会社ユーロスペース 代表取締役
 南 雅彦 一般社団法人日本動画協会 常務理事
 株式会社ボンズ 代表取締役社長

■ TIFFCOM 2014 国際共同製作イベント

国際共同製作イベントでは Ateliers du cinéma européen (ACE) と「日欧コプロダクション・ラボ」を、韓国映画振興委員会 (KOFIC) と「KO-PRODUCTION in TOKYO 2014」を開催。ヨーロッパと韓国から、日本との共同製作企画を持参したプロデューサー10組が参加した。期間中は日本の業界関係者との個別ミーティングや、共同製作に関するセミナー等を実施した。

① 実施内容

- ・主催： 経済産業省、公益財団法人ユニジャパン
- ・日程： 平成 26 年 10 月 21 日～23 日
- ・会場： ホテルグランパシフィック LE DAIBA、他

② 参加企画及びプロデューサー

・ヨーロッパ企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
1	A Picture with Yuki	Lachezar Avramov	Borislav Chouchkov	The Chouchukov Brothers	ブルガリア
2	The Man in a Box	Jean-Gabriel Periot	Charlotte Vincent/ Nicolas Breviere	Local Films	フランス
3	Stories from the Debris	Jennifer Rainsford	David Herdies	Moment Film	スウェーデン
4	The Woman in the Silver Plate	黒沢清	Jerome Dopffer	Balthazar Production	フランス
5	The Ferryman	Tom Shankland	Lee Thomas	Prodigal Films	イギリス
6	Nymphs	未定	Matti Halonen	Fisher King Production Oy	フィンランド

・韓国企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
7	浅草橋の少女	キム・ジョンハン	イム・ワンテ	トンアプロダクション	韓国
8	双子	未定	キム・ジンソン	Mongmaru	
9	コンテナ	未定	イ・ウンギョン	Zoa Films	
10	五春期	ユン・ジョヨン	Fujimoto Shinsuke	ドラゴンハートグローバル	

(4) 日本-インド・アニメーションネットワークの制作運営

(経済産業省の委託事業)

平成 25 年度に引き続き、市場拡大が見込まれるインドにおいて、我が国コンテンツ産業の現地進出の促進を目的として実施。26 年度は日本とインドのアニメ事業者を対象にネットワークイベントを、東京とムンバイで開催した。

■ 東京でのネットワークイベント

① 実施内容

10月に東京で開催された Japan Content Showcase に合わせて、インドからアニメ制作、玩具メーカー、子供向けケーブルテレビ局など6社のエグゼクティブを招聘、日本のアニメ事業者との商談会を実施。

- ・ 日程： 平成26年10月21日～23日
- ・ 会場： ホテル・グランパシフィック Le Daiba (JCS 会場)

② インド側参加者：

- ・ Shambhu Phalke (CEO：Deepak Raj Entertainment & Multimedia Solutions Pvt. Ltd.)
- ・ John Baby Kallinkal (CEO：Funschool India Ltd.)
- ・ Jeswant Raghavan (Senior Vice President：Funschool India Ltd.)
- ・ Srinivas Chilakalapudi (CSO：Green Gold Animation Pvt. Ltd.)
- ・ Suhas Sundar (CEO：Nihodo Media Pvt. Ltd.)
- ・ Ratan Sam George (Head of Asia-Pacific：Toonz Animation India Pvt. Ltd.)
- ・ Ashutosh Parekh (Director of South Asia：Turner International India Pvt. Ltd.)

■ ムンバイでのネットワークイベント

① 実施内容

東京での商談会のフォローアップイベントとして、3月にムンバイにて現地事業との商談会を実施。日本からの参加企業は6社となり、商談会の他、ムンバイのアニメーションスタジオとキッザニアの見学を行った。

- ・ 日程： 平成27年3月4日～5日
- ・ 会場： Sun' n Sand hotel (ムンバイ)

③ 日本側参加者：

- ・ 竹内 宏明 (日活株式会社、国際事業部門)
- ・ 堀 裕治 (株式会社十文字、代表取締役社長)
- ・ 鈴木 良美 (株式会社手塚プロダクション、著作権事業局映像事業課)
- ・ 西山 美樹子 (日本テレビ放送網株式会社、海外ビジネス推進室海外事業部担当部次長)
- ・ 田中 健暁 (株式会社日テレ アックスオン、海外ビジネス推進室海外事業部)
- ・ 熊田 洋 (株式会社タツノコプロ、海外ビジネス部プロデューサー)

【 情報発信 】

（１）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の制作

（国際交流基金との共同事業）

日本で唯一の日英バイリンガルの日本映画データベースであり、2002 年以降に劇場公開された主要な作品を動画付きで掲載している。

■ 現在までの掲載作品数

公開年	掲載作品数
2002 年	40 本
2003 年	118 本
2004 年	138 本
2005 年	117 本
2006 年	223 本
2007 年	289 本
2008 年	372 本
2009 年	376 本
2010 年	398 本
2011 年	366 本
2012 年	371 本
2013 年	353 本
2014 年	362 本
合 計	3,523 本

（２）海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

（文化庁の委託事業）

平成 26 年に劇場公開された代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載、主要映画祭・映像見本市にて配布した。

■ Japanese Film 2015 の概要

- ① 配布数： 2500 部
- ② 配布先： カンヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM（東京）、アメリカン・フィルム・マーケット（ロサンゼルス）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付

- ③ 掲載作品： 選考委員会により代表的な 80 作品を選んで日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会からの協力を得て、各種統計情報を掲載

(3) 平成 26 年度 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

■ 文化庁映画賞

① 贈呈式

- ・ 日程： 平成 26 年 10 月 23 日（木） 20 時 00 分～
- ・ 会場： 六本木ヒルズ「グランドハイアット東京」

② 文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・ 日程： 平成 26 年 10 月 26 日（日） 11 時 00 分～
- ・ 会場： シネマート六本木「スクリーン 4」

③ 平成 26 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

- ・ 文化記録映画大賞

『ある精肉店のはなし』

監督：瀬瀬あや 製作：株式会社やしほ映画社／有限会社ポレポレタイムス社

- ・ 文化記録映画優秀賞

『鬼来迎－鬼と仏が生きる里－』

監督：村山正実／片岡希／井上 実 製作：株式会社桜映画社

『鳥の道を越えて』

監督：今井友樹 製作：工房ギャレット

④ 平成 26 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

- ・ 生頼範義（映画ビジュアル制作）
- ・ 酒匂正弘（映像照明）
- ・ 佐藤富士男（録音技師）
- ・ 仙元誠三（映画撮影監督）
- ・ 半藤克美（アニメーション美術）
- ・ 松田 孝（衣装）
- ・ 宮澤誠一（映画編集・演出）

■ 全国映画会議 シンポジウム—MOVIE CAMPUS—

- ・ 日程：平成 26 年 10 月 27 日（月）
- ・ 会場：シネマート六本木「スクリーン 4」

① 第一部『『アナ雪』を超えろ！～日本のフル CG アニメへの挑戦』

- ・ 荒牧伸志（監督&プロデューサー／ SOLA DIGITAL ARTS）
- ・ 野口光一（東映アニメーション株式会社映像企画部プロデューサー）
- ・ 諏訪道彦（読賣テレビ放送株式会社東京支社編成局アニメーション部エグゼクティブ・プロデューサー）

② 第二部「羽ばたけ！映画の撮影スタッフ～人材育成と未来」

- ・ 「撮影助手育成塾」紹介
兼松熙太郎（協同組合日本映画撮影監督協会 理事長、撮影助手育成塾 塾長）

・ 座談会：

- ・ 藤澤順一（撮影）
- ・ 新家子美穂（撮影）
- ・ 二藤部武男（撮影助手）

【 人材育成 】

（１）国際コンテンツビジネスプロデューサー育成事業（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「若手人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する海外フィルムスクール（大学院）への留学生に対する学費等の支援、説明会の実施、国内外におけるネットワーキングイベントの実施、人材育成に関連する調査等を行った。

■ 長期留学支援事業

① 対象となるフィルムスクール（大学院）

- ・ American Film Institute (AFI Conservatory)
- ・ Columbia University in the City of New York, School of the Arts
- ・ New York University, Tisch School of the Arts
- ・ University of California, Los Angeles, School of Theater, Film and Television
- ・ University of Southern California, School of Cinematic Arts
- ・ University of Texas at Austin, Department of Radio-Television-Film
- ・ Loyola Marymount University, School of Film and Television
- ・ The National Film and Television School
- ・ London Film School

② 対象となるコース

- ・ プロデュースコース、プロダクションコース、脚本コース

③ 平成 26 年度支援対象者

- ・ 内田 堯 (USC School of Cinematic Arts, Film and Television Production)
- ・ 深田 祐輔 (USC School of Cinematic Arts, Film and Television Production)
- ・ 金 久代 (AFI Conservatory, Producing Discipline)
- ・ バック 淳子 (USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program)

④ 留学支援説明会

長期留学支援制度の周知とフィルムスクールへの留学希望者の発掘及びサポートを目的とした説明会を実施

- ・ 日程：平成 26 年 5 月 24 日（土）
- ・ 会場：六本木アカデミーヒルズ 49 カンファレンスルーム 5
- ・ 参加者：30 人

⑤ 国際人材育成委員会

支援対象者の選定や助言を行ってもらうために、コンテンツ業界の実務経験者を中心とした有識者からなる国際人材育成委員会を設置し全3回の委員会を開催

- ・ 富山 省吾（日本アカデミー賞協会 事務局長）
- ・ 北谷 賢司（エイベックス・インターナショナル・ホールディングス株式会社 代表 取締役社長 / 金沢工業大学虎ノ門大学院 教授）
- ・ 鈴木 英夫（東映株式会社 執行役員 / 宣伝部長）
- ・ 土川 勉（株式会社角川大映スタジオ 取締役 / スタジオセンター担当）
- ・ 堀 義貴（株式会社ホリプロ 代表取締役社長）
- ・ 松岡 宏泰（東宝東和株式会社 代表取締役社長 / 東宝株式会社 取締役）
- ・ 山本 一郎（松竹株式会社 メディア事業部）
- ・ 佐合 達矢（経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長）
- ・ 柏原 恭子（経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長）
- ・ 西村 隆（公益財団法人ユニジャパン 事務局長）

■ネットワーキングイベントの実施

① 日本コンテンツの海外展開に向けた国際ビジネスシンポジウム

国内のコンテンツ関連企業の担当者やプロデューサー等を主な対象に、日本コンテンツの海外展開促進をテーマにしたシンポジウムを実施

- ・ 日程：平成26年7月2日（水）
- ・ 会場：ジェトロ本部内 会議室
- ・ 参加者：131人

② 日本コンテンツの海外展開に向けたネットワーキングイベント

日本コンテンツの海外展開をテーマにしたパネルディスカッション、クールジャパンアワード表彰式および関係者による交流会、プロモーションブースの設置等を実施

- ・ 日程：平成26年9月13日（土）
- ・ 会場：Lowes Hotel Hollywood, Solano Canyon Room
- ・ 参加者：82人

(2)「ぴあフィルムフェスティバル」の共催（映画演劇文化協会の補助事業）

■ 実施内容

- ① 日程： 平成 26 年 9 月 13 日（土）～9 月 25 日（木）＊月曜休館
- ② 会場： 東京国立近代美術館フィルムセンター
- ③ 審査員：
 - ・ 柳島克己（撮影監督）
 - ・ 森重 晃（映画プロデューサー）
 - ・ ヤン・ヨンヒ（映画監督）
 - ・ 内田けんじ（映画監督）
 - ・ 成宮寛貴（俳優）

■ 受賞結果

- ・ グランプリ： 『ナイアガラ』（早川千絵・37 歳）
- ・ 準グランプリ： 『乱波』（中島悠喜・23 歳）
- ・ 審査員特別賞： 『埋み火』（山内季子・24 歳）、『人に非ず』（矢川健吾・33 歳）、
『モーターズ』（渡辺大知・23 歳）
- ・ エンタテインメント賞（ホリプロ賞）： 『独裁者、古賀』（飯塚俊光・33 歳）
- ・ ジェムストーン賞（日活賞）： 『ネオ桃太郎』（小田 学・33 歳）
- ・ 映画ファン賞（ぴあ映画生活省）： 『ガンバレとかうるせえ』（佐藤快磨・24 歳）
- ・ 日本映画ペンクラブ賞： 『波伝谷に生きる人びと』（我妻和樹・28 歳）

■ 映画祭展開

- ① 東京国際映画祭
 - ・ 特別提携企画【ぴあフィルムフェスティバル「PFF アワード 2014」受賞作品上映】プログラムとして、上記グランプリ作品、準グランプリ作品、審査員特別賞の 5 作品の上映
 - ・ 第 1 回 SAMURAI 賞授賞記念 北野武監督スペシャルトークイベントに前記 5 作品の監督が参加。
 - ・ JCS への PFF ブースの出展
- ② バンクーバー国際映画祭
 - ・ コンペ部門： 『丸』（鈴木洋平）
 - ・ 招待部門： 『小さな庭園』（斎藤俊介）、『ナイアガラ』、『乱波』
- ③ プサン国際映画祭
 - ・ コンペ部門： 『ガンバレとかうるせえ』
- ④ NEW DIRECTORS NEW FILMS（ニューヨーク）： 『丸』

Ⅱ. [処 務 の 概 要]

1. 役員(理事・監事)、評議員に関する事項

役職名	氏 名	任 期	常勤/ 非常勤	報酬 等	本法人以外の現職
代表理事 理事長	迫本 淳一	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	松竹株式会社 代表取締役社長
業務執行 理事 副理事長	椎名 保	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社 KADOKAWA 特別顧問
理事	井上 弘	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本民間放送連盟 会長
理事	内田 健二	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本動画協会 理事長
理事	木田 幸紀	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	日本放送協会 理事
理事	崔 洋一	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画監督協会 理事長
理事	佐藤 直樹	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	日活株式会社 代表取締役社長
理事	島谷 能成	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長
理事	高田 佳夫	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社電通 取締役 常務執行役員
理事	多田 憲之	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長
理事	松岡 宏泰	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝東和株式会社 代表取締役会長
理事	森 浩生	平成26年 6月21日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	森ビル株式会社 取締役 副社長執行役員
理事	依田 巽	平成26年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ産業部会長
監事	大藏 満彦	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長
監事	唐澤 洋	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公認会計士
評議員 長	大谷 信義	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人映画産業団体連合会 会長
評議員	井上伸一郎	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社 KADOKAWA 代表取締役
評議員	岡田 剛	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長
評議員	岡田 正代	平成26年 6月20日～ 平成30年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長

評議員	大森 壽郎	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ 代表取締役社長
評議員	加藤 正人	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本シナリオ作家協会 会長
評議員	兼松熙太郎	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長
評議員	佐野 哲章	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 業務執行役員
評議員	新藤 次郎	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画製作者協会 代表理事
評議員	杉田 成道	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長
評議員	塚田 芳夫	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益社団法人映像文化製作者連盟 会長
評議員	松岡 功	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝株式会社 名誉会長
評議員	矢内 廣	平成26年 6月20日～ 平成30年 3月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	ぴあ株式会社 代表取締役社長

以上、平成27年3月31日 現在

2. 役員会等に関する事項

理 事 会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成26年6月4日	第1号議案 平成25年度事業報告及び同収支決算承認の件 第2号議案 第27回東京国際映画祭実行委員会委員変更承認の件 第3号議案 評議員会招集日設定案承認の件	可決 〃 〃
平成26年6月20日	第1号議案 平成26年度収支予算一部変更案承認の件 第2号議案 監査委員会委員（1名）委嘱案承認の件 第3号議案 財団役員・法人間の取引承認の件	可決 〃 〃
平成26年6月20日	第1号議案 代表理事選定案承認の件	可決
平成27年3月13日	第1号議案 業務執行理事（副理事長）選任案承認の件 第2号議案 平成27年度事業計画及び同収支予算承認の件 第3号議案 第27回東京国際映画祭実行委員会の解散及び 第28回東京国際映画祭実行委員会の設置並びに 同委員選任案承認の件 第4号議案 諸規程の改定案及び新設案承認の件 第5号議案 特定費用準備金保有案承認の件 第6号議案 評議員会招集日設定案承認の件 第7号議案 事務局長任免案承認の件 [報告事項] 理事長の職務執行状況報告	可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成26年6月20日	第1号議案 評議員（13名）改選案承認の件 第2号議案 評議員長選定案承認の件 第3号議案 理事（13名）及び監事（2名）改選案承認の件 第4号議案 平成25年度事業報告及び同収支決算承認の件 第5号議案 平成26年度収支予算一部変更案承認の件 第6号議案 監査委員会委員（1名）委嘱案承認の件 第7号議案 財団役員・法人間の取引承認の件	可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃
平成27年3月16日	第1号議案 業務執行理事（副理事長）選任案承認の件 第2号議案 平成27年度事業計画及び同収支予算承認の件 第3号議案 第27回東京国際映画祭実行委員会の解散及び 第28回東京国際映画祭実行委員会の設置並びに 同委員選任案承認の件 第4号議案 諸規程の改定案及び新設案承認の件 第5号議案 特定費用準備金保有案承認の件 [報告事項] 1.評議員会招集日設定案承認の件 2.事務局長任免の件	可決 〃 〃 〃 〃

3. 寄附金に関する事項

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：円)

寄附の目的	寄 附 者	寄附金額	受 領 日	備 考
国 際 映 画 祭 開 催 費 用	ウォルトディズニー・ジャパン(株)	20,000,000	平成26年 7月31日	
	松竹(株)	9,000,000	平成26年 6月30日	
	東宝(株)	9,000,000	平成26年 7月31日	
	東映(株)	9,000,000	平成26年 8月11日	
	(株)KADOKAWA	9,000,000	平成26年 6月30日	
	日活(株)	1,500,000	平成26年 9月 5日	
	(一社)映画演劇文化協会	1,000,000	平成26年 9月30日	
ぴあフィルムフェスティバル 制作・運営費用	(一社)映画演劇文化協会	20,000,000	平成26年 7月31日	
若い映画制作者のための企画開発支援	(株)WOWOW	1,000,000	平成27年 2月27日	
		79,500,000		

4. 賛助会費に関する事項

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(年会費 1口 50万円)

目 的	会 員 氏 名	口数	会 員 氏 名	口数
	アスミック・エース(株)	2	大蔵映画(株)	1
	アテネ・フランセ文化事業(株)	1	(株)KADOKAWA	6
	(株)アニプレックス	1	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
	イオンエンターテイメント(株)	1	ギャガ(株)	3
	(株)IMAGICA	1	(株)久栄社	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)	4	(株)クオラス	1
	ウシオ電機(株)	1	(株)サウンドマン	1
	(株)81プロデュース	1	佐々木興業(株)	1
	エイベックス・ピクチャーズ(株)	2	(株)サンライズ社	1
	(株)NHKエンタープライズ	2	(株)集英社	2

ジュピターエンタテインメント(株)	3	東宝アド(株)	1
(株)ショウゲート	2	TOHOシネマズ(株)	1
松竹(株)	6	東宝東和(株)	4
松竹ブロードキャスティング(株)	2	(株)東北新社	4
(株)松竹マルチプレックスシアターズ	1	トップツアー(株)	1
シンエイ動画(株)	1	20世紀フォックス映画	4
スカパーJSAT(株)	1	日活(株)	6
住友商事(株)	1	(株)ニッポン放送	1
(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント	4	(一社)日本映像ソフト協会	4
(株)チッタエンタテインメント	1	(株)日本シネアーツ社	1
(株)ティ・ジョイ	1	日本テレビ放送網(株)	4
(株)TBSテレビ	4	(株)博報堂DYメディアパートナーズ	4
(株)ティー・ワイ・リミテッド	1	パラマウント・ジャパン合同会社	4
(株)テレビ朝日	4	バンダイビジュアル(株)	1
(株)テレビ東京	3	ぴあ(株)	1
(株)電通	4	(株)ヒューマックスシネマ	1
東映(株)	6	(株)フジテレビジョン	4
東映アニメーション(株)	2	ブロードメディア・スタジオ(株)	1
東映ラボ・テック(株)	1	(株)ポニーキャニオン	3
(株)東急レクリエーション	1	武蔵野興業(株)	1
(株)東京現像所	1	ワーナー エンターテイメント ジャパン(株)	4
(株)東京タカラ商会	1	(株)WOWOW	1
(株)東京楽天地	1		
東宝(株)	6		
合計 66社 148口 金額 74,000,000円			